ごみゼロナビゲーション

私たち「ごみゼロナビゲーション」は、
1）「個人が身の周りの問題に無関心・無責任になることと、
2）「社会のしくみ」が人々の対等な関係を拒み参加を受け入れないこと、
この 2 つが、社会の大きな問題だと考えています。「個人」と「社会のしくみ」という 2 つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。
ごみゼロナビゲーションは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。

■2012年度の活動

10,000 人以上の参加者とつくりあげるキャンペーン活動を展開

・12 本のイベントでナビゲート活動を実施し、来場者に対してごみと資源の分別を呼びかけ、自らの手で分別してもらいました。
・キャンペーンにはのべ 10,997名が参加してくれました。
・今年度はのべ 1,690 名のボランティアが活動に参加してくれました。そのうち新規参加者は約 6 割でした。

▲リユースカップ
▶キャンペーンバッグ

ap bank fes―過去最大規模のリユース食器の導入に成功

年度内に 8 本のイベントにリユースカップ・食器を導入することに成功しました。今年は ap bank fes の3 カ所開催に伴い、過去最大規模のリユース食器の導入に成功しました。
また、「カップじゃぶじゃぶキャンペーン」には合計 1,585 名が参加してくれました。
この活動を通して、使い捨て容器の削減に貢献し、リユース食器導入イベントの可能性を感じ取る機会となりました。

THE SOLAR BUDOKAN―日本で初めて太陽光発電でのロックコンサートが実現

脱原発を前向きに考え自ら行動する社会派アーティスト（佐藤タイジ氏、加藤登紀子氏など）とチームメンバーがつながり、関係を深める事ができました。また、佐藤タイジ氏による「THE SOLAR BUDOKAN」では、チームメンバーが太陽光で電気をためた蓄電池の回収等の活動を行いました。
結果として、日本で初めて太陽光発電でのロックコンサートが実現し、クリーンな太陽エネルギーの実用性を証明することに貢献したと思います。

LIVE ECO―全国 341 店舗/施設にリユースカップを導入

今や日本全国には様々なライブハウスが存在し、その数は 1,000 軒にものぼるようです。
しかしライブハウスの多くは、ドリンク用に「使い捨てカップ」を使用しています。
一回使っただけで捨てられるカップが日本全国各地で毎日…と考えたら、膨大な量となることが容易に想像できます。
そこで、ライブハウスがよりエコでピースな空間になってほしいという思いを込め、使い捨てカップの替わりに、繰り返し使える「リユースカップ」を提案しています。
今年度は、全国 341店舗/施設にリユースカップを導入しました。

2012 年度の総括

2012年度は、従来の活動を展開し、新しい取り組みに挑戦していきました。まず、ap bank fes’12 の 3 カ所開催に伴い、過去最大規模の40万人規模のフェスにおけるリユース食器導入を果たし、実に 43 万枚の使い捨て食器を削減することができました。
次に、ap bank fes’12 において、来場者がリユースカップの洗浄という、イベントのしくみに参加できる体験型ツアーを昨年より拡大して実施し、3 日間で 1,585名の方にご参加いただきました。これらは、より来場者のイベントへの参加性を高める企画になったと思います。
その他には、より環境負荷を減らすために、リユース食器ではなく家からマイ食器を持参することを推進しました。
ap bank fes’12 にて、より多くの方に食器を持参してもらうために、持参した方にオリジナルステッカーをプレゼントしました。結果、ap bank fes’12 の 3 イベント平均で約 11%(3 イベント合計で112,000人)の方が食器を持参したことが分かり、今後もイベントにマイ食器を持参する方を増やす取り組みをしていきたいと考えています。
活動したイベントの数は前年度より若干減少しましたが、今年も日本の野外イベントを少しでも環境に優しいものにするために活動できたと思います。来年度は、OG・OB メンバーとのミーティングで生まれた意見を活かし、より日本の若者を元気にするための新たな活動、新団体の設立に向けて活動を展開していきます。

2013年度に向けて――

長期目標

野外イベントの環境対策活動を通して、ワカモノの本気を引き出し、次世代を担う人材を育成します。A SEED JAPANの使命を大切にし、革新的で、対等な意識を持って公正な社会を作る人材を育成します。
「個人」と「社会のしくみ」という 2 つの問題が絡み合って「問題が解決しづらく参加を受け入れない社会」が生まれます。ごみゼロナビゲーションは、「個人」が声を上げるようになり、「社会のしくみ」もその声を受け入れる「参加型社会」を目指して、双方を同時に変えていきます。

短期目標

・音楽フェスティバル・環境イベントを中心に、イベントをより環境負荷の低い参加型の場にしていきます。
・新しいアクションの提案として、マイ食器マイボトルをイベントに持参する事を呼びかける WEB、冊子などを作り推進していきます。
・イベント以外の音楽のある日常の場に、リユースを広げるために、ライブハウスやクラブなどでのリユースカップの使用を促します。
・青年のおかれている立場や現代の課題/問題や青年自身の意識調査を行います。

実行手段

【環境対策活動とマイ食器の推進】
・ 2013 年度は 20 本以上のイベントで活動を実施し、またその内音楽イベント以外の分野で 5 本以上の活動を実施します。
・「マイ食器、マイボトルを持ってフェスに行こう!」プロジェクトを新たに立ち上げ、次の時代の環境対策活動を提案します。より多くの来場者が行動を起こし、ごみを減らすことができる企画進めます。
・ eco アクションキャンペーンブースでは 10,000 名以上の来場者に eco アクションを提案します。
・ FUJI ROCK FESTIVALやARABAKI ROCK FESTなどでは、引き続き来場者に参加頂き資源分別キャンペーンも継続して実施します。
・ 年間 1,000人以上のボランティアとともに活動を実施します。
・ 活動するボランティアの内、 5 割以上を新規参加者に活動してもらうことで、ボランティア活動に参加するキッカケを提供します。
・ 2013 年度は 8 本以上のイベントにリユース食器を導入することを目指します。
・ 来場者に対してリサイクルを行うより、リユースの方が環境に良いことを呼びかけることで、「使い捨てのライフスタイル」を変えていきます。
・ イベント主催者が使い捨て容器をやめ、リユースできる食器を使い始めることで「社会のしくみ」を変えます。

【LIVE ECO】
・ ライブハウス・クラブで 300 店舗以上、それ以外の分野も含めて 400 の場所にリユースカップを導入します。

【青年の人材育成】
・ ワカモノが本気で活動できる場をごみゼロナビゲーション以外にも作るために、様々な NPO や青少年団体を訪問し、ディスカッションします。
・ ごみゼロナビゲーションに参加するボランティア向けにアンケートを実施し、ワカモノのニーズ調査を行います。活動に参加する前と活動後にそれぞれ行い、意識の変化も調査します。
・ 他の団体とのコラボを進めるためにも、最低 2 団体と共同のワークショップを行います。具体的には、仙台ベースのボランティアインフォと組んで音楽ボランティアの横断的なつながりを作るワークショップを5月19日に開催予定です。

エコ貯金

あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを

自然環境と人間が持続可能な形で共存、共生することが可能であり、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

■2012年度の活動

提言――全国の金融機関に公開アンケートを送付

2012年10月に、全国の219機関に対して公開アンケートを送付し、23機関からの回答を得ました。原発や再生可能エネルギーに対する融資方針等を伺いました。この公開アンケートの回答結果については講評を加え、金融機関の取組みに対して比較・評価し、結果をWEBで公開しています。
再生可能エネルギーの設問で、大半の金融機関が再生可能エネルギー事業に対する投融資を増やすと回答されているので、今後の取り組みが期待されます。
原発関連の設問では、原発関連施設や原発関連施設製造産業及び輸出産業への投融資に関して、無回答とする金融機関が多く見られました。
原発の問題は非常に複雑で回答しづらいのだと思われますが、市民が関心のある問題として、金融機関に対して今後もこの問題を問い続けたいと考えます。

啓発――執筆活動でエコ貯金を広める

週刊誌「週刊金曜日」に、１月から３月の毎週、コラム「エコ貯金でいこう！」を連載しました。メンバーで執筆を担当し、エコ貯金の考え方を多くの読者に広めることができました。
また、公開アンケートの回答結果をWEBで公開したり、エコプロダクツ2012で紹介したりすることを通じて、エコ貯金の考え方を市民に広めることができたと考えています。

対話――地域と世界、金融機関と市民をつなぐ国際シンポジウムを開催

2012年12月にグリーンエコノミー国際シンポジウム「市民と金融機関の対話から生まれる持続可能な社会」を2日間に渡り開催しました。これによってBankwiser Internationalの活動を日本においてスタートするきっかけとなり、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現する、新たな一歩となりました。
また、2012年７月に福岡で行われた、全国のNPOバンクが一同に会する「第４回　全国NPOバンクフォーラム」の１つの分科会をエコ貯金プロジェクトで受け持ちました。NPOバンクと出資者、融資先等の関係者が出会い、互いを知り、交流する場を提供しました。

2012 年度の総括

今年度は計画していた実行手段に関しては全て実行しました。Earth Day Tokyo2012、エコプロダクツ2012へのブース出展、金融機関への公開アンケートの送付及び回答結果の公表と色々ありましたが、中でも国際シンポジウムの開催を機に、Bankwiser International の活動を日本で行っていくことへの足がかりが作れたのは大きな成果だと考えます。
計画していたこと以外には、「第４回全国NPOバンクフォーラム」の分科会の企画・運営や、「週刊金曜日」へのコラム連載を行いました。また、ゆうちょ財団が発行する機関誌「個人金融」に論文を寄稿する事にもなりました。
今までの活動を地道に続けながらも、少しでも新しい活動をしていき、長期目標に近づくように今後もエコ貯金プロジェクトの活動を続けていきたいと考えます。

2013年度に向けて――

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

短期目標

・提言：公開アンケートを金融機関（メガバンク、主要地方銀行等）に送付し、フェアで公正な社会づくりに向けた金融機関側の取り組みを促進します。
・啓発：環境イベントへのブース出展や、雑誌等への執筆等の方法を通じて、エコ貯金の考え方をより多くの市民に広めます。
・啓発：NPOバンクについての情報を市民に提供し、預金先の選択肢を広げます。

実行手段

・2013年４月：環境イベント「Earth Day Tokyo 2013」にブース出展をします。（啓発）
・2013年９月：金融機関に公開アンケートを送付します。（提言）
・雑誌等からの依頼や自らの働き掛けで得た執筆機会を通じて、エコ貯金の考え方を伝えていきます。（啓発）
・金融機関の行動指針として作成された「21世紀金融行動原則」の預金者版として、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみにするには、預金者がどのような行動をすれば良いかを定めた「預金者行動原則（仮称）」の作成を行います。（啓発および提言）
・全国のNPOバンクに対して、各地の学生団体等と一緒にインタビューを行い、その情報をWEB等で発信します。（啓発）

～「エコ貯金」が当たり前になる日を目指して。～